

所在地：長崎県平戸市
面積：1,455.2ha

選定年月日：平成22年2月22日、平成22年8月5日追加
選定基準：二(一)(五)(八))

(1) 概要

平戸島の小河川沿いの谷部には、安満岳(やすまんだけ)を中心として防風石垣や石塀を備える春日(かすが)・獅子(しし)・根獅子(ねしこ)・宝亀(ほうき)、田崎(たざき)・神鳥(かんどり)・迎紐差(むかえひもさし)の集落や棚田・牧野が展開しています。

これらの集落の多くは、16世紀半ばから17世紀初頭にかけて書かれたイエズス会宣教師の書簡において、教会や慈悲組合についての記述とともにその名を確認することができます。また、現在も伝統的家屋の中に戦国～江戸時代初期のキリシタン信仰に起源を持つ納戸神を祀るなど、かくれキリシタンとしての営みを続け、安満岳や中江ノ島のような聖地とともに、殉教地を伴う独特の様相を現在に留めています。

棚田群は、大きなものでは海岸から標高約200mの地点まで連続して築造され、山間部に点在する若干の耕作放棄地を除けば、全体としてよく耕作されています。地元の礫岩を用いた石積みの中には、生月(いきつき)の技術者集団の手によるものも認められます。

以上のように、「平戸島の文化的景観」は、かくれキリシタンの伝統を引き継ぎつつ、島嶼(とうしょ)の制約された条件の下で継続的に行われた開墾及び生産活動によって形成された棚田群や牧野、人々の居住地によって構成される独特の文化的景観です。



平戸島西海岸の集落



海沿いに展開する棚田

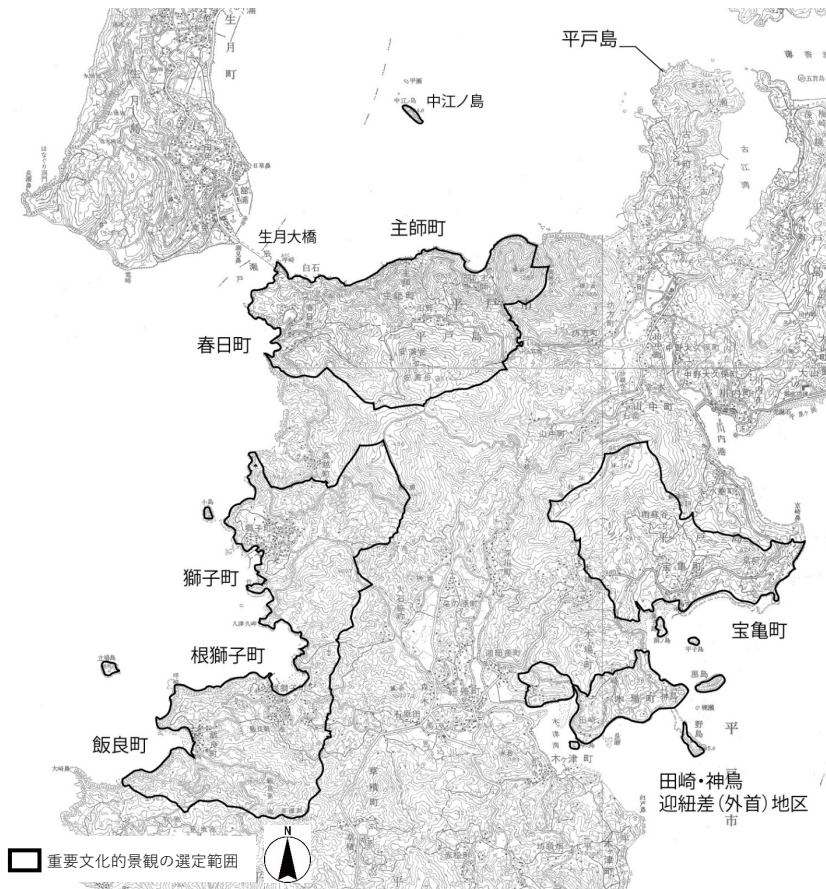


谷沿いに耕作された棚田



石積み擁壁が卓越する集落

（２）選定範囲



- 重要な構成要素：75件

（３）選定による効果

「平戸島の文化的景観」の所在する地域には、棚田や牧野を伴う良好な農村集落が分布していますが、島嶼という立地ゆえの耕作困難や少子高齢化などから、集落景観を維持することが難しくなっています。そのような中で、地域のまちづくり団体が主体となり、文化庁補助金を活用し整備した拠点施設で集落の歴史や魅力発信、交流促進を行う事例もあり、これらの活動が、文化的景観に対する理解と魅力ある地域づくりの促進につながっています。



拠点施設「かたりな」のスタッフと来訪者におもてなしをする語り部の皆さん



来訪者に集落の歴史や魅力などを説明し、文化的景観の理解促進につながっている

（４）保存活用計画などの基礎情報

- 平戸島と生月島の文化的景観保存調査報告書(平成21年5月、平戸市教育委員会)
- 文化的景観保存計画 平戸島と生月島の文化的景観(平成21年7月、平戸市教育委員会)
- 重要文化的景観 平戸島の文化的景観整備活用計画(平成25年8月、平戸市教育委員会)
- ホームページ
<https://www.city.hirado.nagasaki.jp/kurashi/culture/bunka/bunkakeiks/index.html>

（５）活用事例

事例42-01 ①

安満岳の歴史や文化を伝え、魅力を発信する山頂休憩所の設置

文化庁補助金

●行政による取り組み

「平戸島の文化的景観」の重要な構成要素である安満岳の歴史と魅力発信に役の来訪者に対する利便性および安全性の向上を図るため、山頂付近に休憩所と山頂に至る歩道を令和4年度に新たに整備しました。休憩所は、来訪者の交流の場にもなっていると同時に、説明板を設置し、安満岳の歴史や文化を伝え、魅力を発信しています。

安満岳にある白山比賣神社では、4月と10月に例祭が行われ、その際、拝殿で平戸神楽(国指定重要無形民俗文化財)が奉納されていましたが、平成30年7月に台風で拝殿が被災して以降、休止状態となっていました。現在は、休憩所で平戸神楽が披露されており、伝統文化の継承にも役立てられています。

来訪者の声

安満岳に休憩所と歩道が新しくできたと聞き、久しぶりに訪れました。相変わらず山頂からの景色は素晴らしく、休憩所内の説明板で、安満岳の歴史などを知ることができ、安満岳の魅力を再認識できて良かったです。ここで出会った方ともお友達になり、今度一緒に登山する約束もしました。



来訪者の休憩や交流・情報発信の場となっている休憩所



安満岳山頂までつながる新たに整備された歩道



安満岳山頂からの風景



安満岳で5年ぶりに披露された平戸神楽

① 地域内での共有

② 活性化の共有

③ 地域外への広報

④ 魅力を引き出す

⑤ 財源と運用の確保

⑥ 人づくり

(5) 活用事例

事例42-01 ②

空き家を整備し、住民のおもてなしがリピーターと雇用を生む集落案内所を設置

文化庁補助金

●行政と住民等の協働による取り組み

春日集落案内所「かたりな」は、市が、重要文化的景観と世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産である春日集落の価値を伝えるために、空き家を整備した施設です。

展示スペースや売店からなる展示多目的棟と、地元の住民がお茶やお漬物で来訪者をおもてなしする交流棟の2棟で構成され、集落の景観やかくれキリシタンの歴史を伝えるだけでなく、来訪者と住民が交流する場として、多くの方が訪れ、好評です。

施設は指定管理で運営され、案内やおもてなしを担う住民の雇用を生んでいます。

「かたりな」で来訪者の受入れや集落内の景観保全活動に取り組んでいる春日町まちづくり協議会「安満の里春日講」は、その活動が評価され、令和5年度ふるさとづくり大賞で団体表彰(総務大臣表彰)を受賞しました。

✓ ふるさとづくり大賞（総務大臣表彰）（令和5年度）



来訪者との交流や情報発信を行う「かたりな」



展示多目的棟内では、住民自らが集落などについて解説



リピーターを呼ぶ、交流棟でのおもてなし

来訪者の声

- 地元の方の丁寧な案内のおかげで、春日集落の景観やかくれキリシタンについて詳しく知ることができました。おばあちゃんが用意してくれたお茶とお漬物がとても美味しかったです。
- 語り部のおばあちゃんたちから春日の歴史や、かくれキリシタンの話などを生の声で聞くことができるので、すごくいい経験ができました。

団体等情報：平戸市ホームページ かたりな

https://www.city.hirado.nagasaki.jp/kurashi/culture/bunka/s_isan/kasuga_info.html

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
目標の共有

③ 地域外への
広報

④ 魅力を引き
出す開発

⑤ 資源と
確保の運用

⑥ 人づくり
・